臨牀及ビ實驗

口唇囊腫ニ就テ

Über die sogenannte Lippen-Zyste. Von Dr. F. Ono

大阪帝國大學醫學部齒科教室(指導弓倉博士)

小 野 文 彦

本症ニ關シテハ多數外國文獻ニ發表セラレ、George M. Dorrance ハ Retention cyste of lip ノ題下ニ、又 Jean Baillis ハ Unterlippen Zyste トシテ共ニ小供ノ下唇粘膜ニ發生セルモノヲ記述シ、Cervera ハ Schleimhautzyste auf der Lippe ノ題下ニ主トシテソノ電氣治療法ヲ述ベ其ノ他、H. Moral ハ Schleimzyste ト Lipom トノ鑑別ヲ詳述シ、Fritz Williger ハ口腔粘膜ニ發生スル囊腫トシテ Lippenzyste ト Gesichtspaltenzyste トヲ舉ゲ、Brown ハ Retentionzyste、福島氏ハ表在性粘膜囊腫、遠藤、佐藤兩氏ハ粘液囊腫、入戸野氏ハ口唇囊腫トシテ各々ソノ文獻ニ記載アリ。

而シテコノモノハ、口唇ニ存在スル粘液排泄管が咬傷、其ノ他ノ原因ニヨリ閉塞サレ腺管内ニ粘液滯溜シ、管腔ヲ擴張シテ遂ニハ腺自身が囊腫狀ニ變化スル事ニヨリテ發生スルモノニシテ、濾胞囊腫、寄生蟲囊腫、口腔内ニ於テハ蝦蟇腫、口腔底皮様囊腫、唾液腺囊腫等ノ如ク滯溜囊腫ニ屬スルモノナリ。

ソノ大サハ、小ナルハ粟粒大、大ナルハ雀卵大ニ至ルモノアリ。

比較的表層ニ占位シ附近粘膜トノ移行狀態、緩徐ニシテ、觸診ニ於テ強靱ニシテ自由ニ移動シ得且ツ波動ヲ觸ル。ソノ部ノ粘膜ハ菲薄ニシテ淡紅色乃至暗青色ヲ呈シ、内容ハ透明無色若クハ帶黃色、粘稠牽縷性ノ液體ナリ。

ソノ發育ハ頗ル緩慢ニシテ一定度ニ達スレバ自潰シテ内容液ヲ排出シ、一時治癒セル如クナルモ粘液ノ滯溜再ビ開始サレ豐隆ヲ來タシ、長年月ニ互リ間歇的ニ反復セルモノナリ。經過一般ニ極メテ良好ニシテ何等ノ機能障礙ヲモ呈セザルヲ普通トスレドモ、コノ間モシ感染化膿ヲ起ス事アレバ炎症々狀ヲ呈スルニ至ルハ勿論ナリ。

余ハ最近 2 例ヲ經驗セルヲ以テ茲ニ報告ス。

臨 牀 例

第 1 例(第 1 圖、第 2 圖)

患者ハ20歳ノ職業婦人ナリ。

父母共ニ健在ニシテ腫瘍等ニ罹患セル事ナク、患者自身ニ於テモ生來强健ニシテ著患ヲ知ラズ。

本症ノ既往症トシテハ、患者ハ時々肩凝リヲ感ジソノ際口唇ヲ嚙ム習慣アリ。約1ヶ月前肩凝リヲ感ジ食事中誤リテ下顎左側犬齒及ビ第一小白齒頰側ノ粘膜ヲ強く嚙ミ、少量ノ出血アリタリ。其ノ後3日ニシテ該部ニ豆粒大ノ隆起物生ゼルヲ認ム。何等ノ障碍ナク又、不快ヲモ感ゼザルヲ以テソノマ、放置セルニ、遂ニ現在ノ雀卵大ニ達シ咀嚼、談話等ニ不快ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ本齒科教室ニ診ヲ乞フニ至レリ。

全身状態ヲ檢スルニ體格、營養頗ル優良ニシテ體溫、脈搏、呼吸等ニ於テ何等ノ異常ヲ認メズ。

各齒牙ヲ檢スルニ、 $\overline{8}$ ハ咬合面齲蝕、 $\overline{6}$ $\overline{7}$ $\overline{6}$ モ同様ニシテ何レモ金充填ナリ。其ノ他 $\overline{4}$ ヤ、頰側轉位セルノ外特記スベキモノナシ。

局所々見トシテ先ヅ視診ヲ行フニ、罹患部即チ下顎左側犬齒及ビ第一小白齒々冠部頰側粘膜部ニ基底ノ直徑約1糎ノ半球狀隆起物アリ。ソノ表面ハ平滑ニシテ周圍粘膜トノ境界ハscharfナラズ、基底部分ヨリ漸次豐隆シ、恰モ kleine Kalotteヲ基底上ニ置キ、ソノ上ニ一ツノ厚キ布ヲ擴ゲタル如ク緩徐ニ移行セリ。

而シテ口唇ヲ外翻スル事ニヨリ更ニ明ニ觀ル事ヲ得。隆起物周圍ニ於ケル粘膜ハ普通ノ淡紫色ヲ呈セルモ、該豐隆部ハ帶青色ナリ。

第 1 圖

(第1例患者)

口唇囊腫

第 2 圖

(第1例患者局所所見模型圖)
(下唇ヲ外翻セル圖)

口唇鉤

口唇囊腫

口唇鉤

更ニ觸診スルニ、柔軟彈力性ニシテ波動ヲ觸レ、試験穿刺ヲ行フニ、牽縷性内容物
排出セリ。

淋巴腺ノ觸診ヲ行フニ左右共何等ノ腫脹、壓痛等ヲ認メズ。

第2例(第3圖)

患者ハ18歳ノ學生(女性)ニシテ父母共ニ健在著患ナク、患者モ榮養、體格佳良ニ

第 3 圖

(第2例患者ノ罹患部寫生圖)

シテ強健ナリ。

本症ノ既往症トシテハ、第1例ト同様約1ヶ月前、下顎右側犬齒部頬粘膜ヲ食事中誤リテ強く噛ミタルガ、其ノ後何等ノ症状ヲ呈セザルヲ以テソノマ、放置セリ。〔6〕ノ治療ノタメ本教室ヲ訪ゾレ豫診時、咬傷部ニ小指頭大ノ隆起物ヲ發見セリ。患者ハ自覺症状ナク從ツテ自ラハ其ノ存在ヲ知ラズ。

口腔内ヲ檢スルニ〔6〕ガ大ナル齧蝕ニ罹レルノ外、何等ノ異常ヲ認メズ。

該隆起物ハ第1例ニ比シ小サク其ノ他異變ナシ。淋巴腺ヲ觸診スルニ腫脹、壓痛ヲ認メズ。

診 斷

第1例、第2例共ニ口唇囊腫。

理由

- (a) 緩慢ナル發育ヲナシ何等自覺の症候ナキ事。
- (b) 隆起物ト周圍粘膜トノ移行緩徐ナル事。
- (c) 緊張彈力性ニシテ波動ヲ觸ル、事。
- (d) 試験穿刺ニヨリテ牽縷性帶黃色ノ液體ヲ搬出セル事。

以上ノコトニヨリ本症ガ口唇囊腫ナル事更ニ疑フノ餘地ナク從ツテ特ニ鑑別スベキ類症ナキガ如シ。然レドモ本症ノ診斷ニ臨ミ考察スベキモノヲ擧グレバ次ノ如シ。

(1) 脂肪腫

平滑ナル表面ヲ有シ柔軟ニシテ、之ニ觸ル、ニ葉狀感アリ。基底部分ニ於テ移動シ難ク、境界全ク scharf ニシテ小半球狀ヲナス。コレ全ク口唇囊腫ト異ルトコロニシテ、疼痛、壓痛ナク發育緩慢ニ長日月ヲ要スル點ハ相類似スレド、ソノ組織剖面ハ帶黃色ニシテ檢鏡スレバ脂肪組織ヨリナリ、明ニ區別スル事ヲ得。

(2) 血管腫

帶青色ニ透視スルガ故ニ血管腫ト鑑別ヲ要スルモノナルガ、コノモノハ壓ヲ加フレバ凹陷スレドモ壓ヲ去ル時ハ舊位ニ復シ且ツ限界明ナラズ。結節狀物ヲ觸レ表面平滑ナラズ凹凸不平ナリ。コレ等ニヨリテ容易ニ鑑別シ得。

(3) 淋巴管腫

限界明確ナラズ。淋巴液ヲ包藏ス。

(4) 嚙傷ニヨル血瘤腫トノ區別

ソノ内容ヲ檢スル事ニヨリ明ニシテ、血瘤腫ナル時ハ赤血球、其ノ他ノ分解產物ヲ内容中ニ證明シ得ル事ニヨリ鑑別容易ナリ。

處 置

口唇囊腫ニ對シテソノ除去ヲ必要トスル絶對的ノ適應症ハ、炎症ヲ起セル場合及ビ食物攝取、言語障礙等ヲ來セル場合ナリ。

本症例ニ於テハ H. Moral, Brown, Euler, M. Dorrance, Fritz Williger 等ノ推賞セル如ク全摘出ヲ行ヘリ。

其ノ手術方法ハ1%「ノボカイン」ノ局所麻酔後、M. Dorrance ノ手指把持法及ビ H. Moral ノ摘出法ヲ應用セリ。經過良好ニシテ2週間ニテ全治シ、今日ニ至ルモ再發ヲ見ズ。

而シテ本症例ニ應用セル H. Moral, M. Dorrance ノ手術方法ハ次ノ如シ。

(1) H. Moral

局所麻酔ノ後、有鉤「ピンセット」ヲ以テ囊腫ノ上部ヲ把持シ、次ニ鉗ヲ以テ kleine Kalotte ノ如ク上部ヲ切除シ引續キテ基底部ヲ分離除去シ、傷面内ニ壁ノ殘存セザル様全部ノ摘出ヲ終ル。

(2) M. Dorrance

1%「ノボカイン」局所麻酔ヲ行ヒ、次ニ手術時ノ視野ヲ明カトナスタメ及ビ止血ノ目的ニ第4圖ニ示ス如キ Crile rubber-coated clamp ヲ囊腫ノ兩側約1吋ノトコロニ裝置ス。又第5圖ニ示ス如ク助手ハ恰モコノ特種ナル「クランプ」ヲ應用セル如ク指ヲ以テ下唇ノ壓排及ビ止血ヲ行フモ可ナリ。以上ノ前準備ノ後手術ヲ行フ。手術ニ於テ注意スベキハ全囊ヲ充分除去スル事及ビ附近粘液腺ヲ損傷セザル事ナリ。コレ再發ノ原因(後者ハ眞ノ再發ニハアラザレド)トナルヲ以テナリ。

粘膜ノ縫合ニ當リテハ Pegenstecher 又ハ horse hair ヲ用フ。silkworm gut ハ硬キタメ、縫合後患者ハ不快ヲ感じ舌尖ニテソノ端ヲ濕シ柔軟トナサント努力スルタ

メ縫合部粘膜ニ刺戟ヲ與ヘ感染ヲ招ク恐アルヲ以テ使用ス可ラズ。

第 4 圖
(M. Dorrance「クランプ」把持法)

第 5 圖
(M. Dorrance手指把持法)

結 論

- (1) 口唇囊腫ハ口腔粘膜ニ好發スル粘液滯溜囊腫ニシテ、何等ノ障礙ナク發育シ相當ノ大サニ達スルモ不快ヲ感ズル程度ニシテ、感染化膿ヲ起ス事少キヲ以テ、患者ハソノマ、放置スル事多ク、一定ノ大サニ達スル時ハ破壊シー時治癒セル如クナルモ再び豐隆ヲ生ジ、長年月ニ互リ間歇的發育ヲナス事多シ。
- (2) ソノ診斷ハ容易ニシテ附近粘膜トノ關係、内容物等ニヨリテ明ニ他ノ腫瘍ト區別シ得。
- (3) 原因ハ粘液腺排泄管ノ閉塞ニヨリテ腺管内ニ粘液ヲ滯溜スルタメニシテ、排泄管ノ閉塞ハ咬傷其ノ他ノ原因ニヨルト述ベラル、モ本症例及ビ他ノ報告ヲ参照スルニ咬傷後ニ來ルモノ最モ多シ。
- (4) 療法ハ全摘出ヲ行フ事ニシテ、H. Moral, M. Dorranceノ手術法ニ從フヲヨシトス。

稿ヲ終ルニ臨ミ御懇篤ナル御指導、御校閲ヲ賜リタル教室主任弓倉博士ニ滿腔ノ謝意ヲ表スルモノナリ。

文 獻

- 1) H. Moral, Schleimzyste. (Einführung in die Klinik der Zahn und Mundkrankheiten).
- 2) Fritz Williger, Die Krankheiten der Lippen. (Handbuch der Zahnheilkunde. Erster Band).
- 3) Port u. Euler, Zysten der Weichteil. (Lehrbuch der Zahnheilkunde).
- 4)

Borches, Schleimdrüsenzysten. (Chirurgie der Kopfes). 5) Brown, Retention cysts-cysts of the mucous glands. (The surgery of oral diseases and malformation.) 6) M. Dorrance, Retention cyst of lip. (The dental cosmos. April. 1930). 7) Cervera, Schleimhautcyste auf der Lippe. (die Fortschritte d. Zahnheilkunde. 5 Band. August. 1929). 8) Jean Billis, Unterlippen-zyste. (Deutsch. Monatschrift für Zahnheilkunde. September. 1927.) 9) 福島 尚純, 口腔外科學. 10) 遠藤至六郎, 齒科學報. 32 卷. 第 3 號. 11) 佐藤運雄 齒科診斷學. 12) 入戸野賢二, 口腔外科學.

下顎兩側第二及ビ第三大白齒ノ置換一例

九州齒科醫學專門學校附屬醫院

平 川 勇

Ein Fall von Vertauschung zwischen den zweiten und dritten Molaren
an beiden Seiten des Unterkiefers. Von Dr. Isamu Hirakawa.

齒牙ノ Verlagerung ニ關シテハ文獻上 Verirrung, Vertauschung, Inversion 及ビ horizontale Verlagerung 等ニ分類サレテ居ル, 又此等 Verlagerung ノ原因トシテ齒牙交換期ニ際シテ永久齒萌出ノ Stellungsfehlen ガ最も多ク考ヘラレテ居ルガ, 又顎骨形成期或ハ發育期ニ於ケル偶然ナ器械的作用(外傷)乃至ハ abnorme Gewebsverschiebung ノ結果齒芽ノ位置異常ヲ起シ, 引テハ齒牙萌出位置異常ヲ惹起スルト云ハレテ居ル, 更ラニ齒牙ノ位置異常ハ當該齒牙ニトツテ Heterotopie トシテ, 即チ少ナクモ最初カラ abnorme Orientierung ニ發育シタモノデアルト説明スル學者モアル。

尚ホ前記諸種ノ Verlagerung ノ中 Vertauschung ハ最も稀ニ見ル例デアリ, 多クハ上下顎何レモ犬齒部即チ犬齒ト側切齒, 犬齒ト第一小白齒ト位置交換シテ居ル。余ノ經驗シタ Vertauschung ハ下顎兩側最後白齒部デアリ, 次ニ詳記シテ參考ニ供セントス。

患者, J. H. ♂. 29 歳

生來極メテ健康ニシテ體格, 榮養共ニ良好ナル青年ナリ, 既往ニ於テ顎部ニ特ニ記憶ス可キ外傷ヲ受ケタル事ナシ, 齒牙ハ一般ニ發育良好, 8 | ノミガ未萌出デアルガ X線ニテ小ナル智齒ノ埋伏セルヲ知ル, 8 |, 7.6 | ノ三齒ハ比較的高度ナル齶蝕ニ冒サレテ居ルガ他ノ齒牙ハ健全ニシテ齒列モ概シテ正シク帶圓方形ヲ呈ス(第一圖參照)。

却說. 下顎兩側共ニ 87 | 78 ガ vertauschen シテ 87 | ノ位置交換セルハ第一圖ニテ